

■アフター5 スター賞（SⅢ）アラカルト（過去全 29 回の分析）

※第 1 回（平成 6 年）から第 8 回（平成 13 年）までは 1,800m で実施

※第 9 回（平成 14 年）は 1,790m で実施

※第 10 回（平成 15 年）は 1,190m で実施

※第 14 回（平成 19 年）は馬インフルエンザの影響で施行日を 9 月 5 日から 11 月 30 日に延期

※記録は令和 5 年 8 月 24 日時点

■ 1 番人気から 3 番人気までの馬は 3 着内率がほぼ同水準

単勝 1 番人気馬は 11 勝、2 着 4 回、3 着 1 回で、3 着内率が 55.2%、単勝 2 番人気馬は 5 勝、2 着 8 回、3 着 5 回で、3 着内率が 62.1%、単勝 3 番人気馬は 4 勝、2 着 3 回、3 着 8 回で、3 着内率が 51.7%となっている。上位人気グループの馬は同等に評価して良さそうだ。

■ 3 番人気以内の馬が 1～3 着を占めた例は 3 回

過去 29 回のうち 20 回は、単勝 3 番人気以内の馬が勝利を収めている。なお、単勝 3 番人気以内の馬によるワンツーフイニッシュ決着は 11 回、単勝 3 番人気以内の馬によるワンツースリーフィニッシュ決着は 3 回ある。

■ 優勝馬の年齢は 3 歳から 9 歳まで多岐に渡る

馬齢別の勝利数を見ると、3 歳が 6 勝、4 歳が 3 勝、5 歳が 7 勝、6 歳が 4 勝、7 歳が 3 勝、8 歳が 4 勝、9 歳が 2 勝となっている。幅広い年齢層から優勝馬が出ているレースと言って良いだろう。

■ 優勝馬の過半数は大井所属

所属別の勝利数を見ると、浦和が 2 勝、船橋が 9 勝、大井が 16 勝、川崎が 2 勝となっている。1 着となった回数を基準とするならば、地元の大井勢が優勢だ。

■牝馬は1勝、外国産馬は3勝

牝馬の優勝例は第20回（平成25年）のハードデイズナイトのみである。また、外国産馬の優勝例は第12回（平成17年）のロッキーアピール、第16回（平成21年）のケイアイジンジン、第23回（平成28年）のルックスザットキルと、これまでに3回ある。

■ハタノアドニスとキタサンミカヅキが“連覇”を達成

複数回の優勝例がある馬は、第10回（平成15年）・第11回（平成16年）のハタノアドニス、第24回（平成29年）・第25回（平成30年）・第26回（令和元年）のキタサンミカヅキと、現在のところ2頭いる。ハタノアドニスは2年連続の、キタサンミカヅキは3年連続の優勝だ。

■騎手別の歴代最多勝記録は「5」

騎手別の勝利数を見ると、5勝の内田博幸騎手が単独トップ。2勝の石崎駿騎手、坂井英光騎手、的場文男騎手、森泰斗騎手が2位タイとなっている。

■調教師別の歴代最多勝記録は「3」

調教師別の勝利数を見ると、3勝の川島正行調教師、佐藤賢二調教師、高橋三郎調教師、福永二三雄調教師がトップタイ。小久保智調教師が2勝で単独5位となっている。

■優勝馬の大半は馬番が1～8番

枠番別の勝利数を見ると、3枠（6勝）が単独トップ。4枠と6枠（各5勝）が2位タイ、1枠と5枠（各4勝）が4位タイとなっている。また、馬番別の勝利数を見ると、6番（6勝）が単独トップ。1番、2番、7番、8番（各3勝）が2位タイである。なお、11番、14番、15番は未だ優勝例がなく、9番、10番、12番、13番、16番もそれぞれ1勝どまりだ。